

集会でよくお寄せいただいた質問についてのQ&A

Q1. 吉田寮はなんでこんなに汚いんですか

これは、裁判報告集会に限らず、よく寮生が受ける質問の一つです。「汚い」という言葉のニュアンスは、質問する人によってさまざまですから、まとめて答えるのは難しいのですが、できる限り色々な要素に言及しながら回答を用意しました。

まず、吉田寮を清潔でないと感じる人が多いことは確かですし、その責任が、主として吉田寮を日常的に利用している人々、特に居住者である寮生にあることも、寮自治会として受け止めるべきことです。

自治を謳う吉田寮において、空間(部屋・キッチン・共同スペースなど)の維持・管理は、その場所を使う当事者が主体的にやるべきことであり、掃除・片付けも当然その範囲に含まれます。清潔に、また丁寧に物品を用いることは、吉田寮を長く安全に使用することに繋がってきますし、伝染病や食中毒などを防ぐこともできます。

吉田寮の現状の背景として、かつて吉田寮が男子学生限定のエリート養成を目的として作られた場であるという歴史性も考える必要があります。日本社会では、現代に至るまで、男性ジェンダーの多くはケア労働の役割を担わない傾向にあります。吉田寮は、入寮に際して国籍や性のあり方の条件を設けていませんが、いまなお男子学生が多数であり、この現状と吉田寮の歴史は無縁とは言えないでしょう。

吉田寮を清潔に保ち、今度も長く使用可能な場にするために、寮生・寮外生は吉田寮の日常的な維持管理により意識を向ける必要があります。このことを、吉田寮を使う人々は重く受け止めるなければなりません。

以上を踏まえた上で、その他の要因についても、みなさんと共有し、一緒に考えていきたいと思っています。

まず、以前の集会でも報告したことがあるのですが、大学による補修の怠りが、寮の環境を悪化させている面もあります。たとえば、雨漏りがする場所があると、バケツを置く必要がありますが、バケツに溜まった水は腐りますし、虫の発生源にもなりますから、その時点で不潔なことこの上ないです。バケツを置き忘れてしまうと、廊下の木材や畳が腐る原因になります。また、立て付けが悪く閉まらない窓や、窓ガラスが割れている窓があると、雨だけでなく、落ち葉や土ほこりも入ってきますから、廊下はすぐに汚れてしまいます。

以上を解決するための大規模な補修は、自治会の予算規模では実行が難しいですし、建物の所有者である大学当局との交渉は必ず必要になってきます。補修については、数十年来、大学当局と吉田寮自治会の間で話し合いが行われ、合意に達したこともありましたが、結局は大学当局による補修は実現しないままになっています。土壁の補修、廊下の床板の補修など、寮自治会もたびたび自主的に補修を行ってきましたが、全ての補修を寮自治会が請け負うのは現状では難しいです。

これは大規模な補修の例ですが、日常的な維持管理の面でも、大学当局との交渉がスムーズに行われていれば、吉田寮の環境がよりよい状態で保たれるのに、という事例は数多くあります。まず、今の吉田寮には、大学の清掃員さんが来ません。下水のマンホールのゴミ受け所の掃除(放置すると下水が溢れてしまう)、大量に積み重なる銀杏と落ち葉の掃除(放置すると悪臭がする)、雨どいに溜まった落ち葉の掃除(放置すると排水に影響が出る)など、大学内の他の場所では清掃員さんや業者に任されている仕事を、寮生が代わりにやっている状態です。

現在の大学においては、こうした作業は清掃業者に外注し、安い賃金で長時間労働をさせているという実態があります。私たちはまず、この状態が正しいのかという点に疑問を抱くべきです。ただ、こうした作業も寮生たちが担うべきということであれば、大学当局が道具や物品の支援などを行うのが筋でしょう。

ほか、水道管の修理といった補修、中庭の折れた木の枝の撤去(放置するとシロアリが湧いてしまう)なども、大学当局は放置しています。紙ごみの回収も、大学内の集積所には出さずに自分たちで処理しています。どれも細かな点ですが、積み重なると寮生にかかる負担はかなり大きくなります。

そして、最大の要因と言えるのが、寮生の減少です。大学からの長きにわたる廃寮化攻撃のなかで、吉田寮に住む人は減少しています。かつては現棟だけで200人以上が住んでいたこともありますが、現在は新棟・現棟を合わせて120人程度です。寮を必要とする学生は数多いはずですが、当局のネガティブキャンペーンもあり、入寮を躊躇う学生も多いです。

こうした背景があり、寮としての空間は広がっているのに、維持管理の人手は減少しているわけです。そしてそれぞれ使う場所、使い方、使う時間などもさまざまです。これだけ広大な空間を、120人ほどの寮生できちんと維持するのは、とても難しいことです。

加えて、現棟は「占有移転禁止の仮処分」を受けた状態にあり、債務者(おおむね2019年3月時点の現棟居住の寮生)以外は、住む権利を奪われています。空き部屋があるだけで、その部屋で雨漏りがあろうが動物が住んでいようが、どうしても発見が遅れてしまい、寮の清潔さは失われていきます。ここまで述べてきた補修の問題も、そもそも補修しなければならない場所があることを人が発見しなければ、補修しようがありません。吉田寮が、人が住み続けることで維持されてきた空間であることを、大学当局はよくよく認識すべきではないでしょうか。

さて、最後に、この質問の前提についても、少しみなさんに考えていただきたいことがあります。この質問の背景には、「汚いことは悪い状態で、排除すべきだ」という考えがあるように思います。ただ、そもそも「清潔」という概念自体が、上層階級が下層を不当に扱うときに常用されるもので、この言説が「古いもの」=「不衛生」=「不潔」=「潰すべき」という規範を再生産するものであることは否めません。不潔であれば悪いもの、と頭から決めてかかることの暴力性には目を向けなければならないでしょう。実際、「あんな汚いところによく住めますね」などと言われ、気分を害する寮生がいるのも事実です。

また、この質問は、「吉田寮が汚い場所だ」というのが前提になっていますが、そもそも吉田寮はそんなに汚くないのでは、と感じる人もいます。普通は可視化されませんが、ワンルームの一人暮らしの部屋など、吉田寮と似たような状態にある場合も多いものです。建物そのものが古く、また多くの人目に晒される吉田寮という空間が、特別に「汚く」見られがちであることも、考慮に入れなければなりません。

以上、吉田寮はなぜ「汚い」のか、吉田寮を維持管理するとはどういうことなのかということについて、考えるきっかけになれば幸いです。

Q2. 補修などのお金は自分たちで準備すればいいのではないか

現在、吉田寮は「在期対策カンパ」を募っており、多くの支援を頂いています。ただ、補修などを全て自力で賄うほどのお金は集まっていません。もちろん、これは寮生の広報不足にも問題がありますが、大学という世間的に「立派」で権力のある組織に訴えられているという立場が、すでに非常に苦しいものであり、広い支持は得るのが難しい状況にあることも否めません。だからこそ大学に訴訟の取り下げを要求しています。

ただ、そもそも「寮の運営に必要なお金はできるだけ寮側で用意すべき」という考え方自体が、いわゆる「受益者負担主義」に近づくものであり、吉田寮の理念と反するものであることも、指摘せねばなりません。

京都大学の福利厚生施設である吉田寮は、困っている人一人一人の受け皿になる場であり、それを用意するのは大学の責務であると考えています。自治寮という形を守り、寮費の値上げにも反対し続けてきたのもそのためです。

また、木造建築である吉田寮は、絶えず補修が必要であり、一度大規模にお金を集めて補修すれば解決、という性質のものではありません。しかし、一度補修費用を肩代わりしてしまえば、未来永劫、負担が寮自治会側にのしかかり続けることになるでしょう。

さて、だからといって、多大な公金が投入されている京都大学(そして吉田寮)の一員である私たちが、その上に胡坐をかいていいわけではありません。「寮の運営費・補修費は基本的に大学側が負担すべき」という要求は当然のものであると主張しながらも、それが当たり前を受け入れられることなど考えるのではなく、言葉を尽くして説明していく責任があると考えています。

Q3. 集会に来る人が固定化しているように見えるが、より広い人に呼びかけられないのか

現状、寮内の方針では、裁判報告集会・交流会は、吉田寮の現状や裁判の進捗などについてある程度知識がある方や、既に寮との繋がりがある方向けに、定期的に交流する場を設けた

めのものとしております。これは、この集会在「裁判の口頭弁論の進捗を伝える」ものである以上、どうしても、元から知識のある方向けの内容になってしまうからです。

当然、これまで吉田寮に興味の無かった人に向けて、吉田寮との連帯を訴えることもとても大切です。吉田寮に新しく関わる人を作り出す場としては、4月に行った新歓イベントや、食堂・厨房で開催されている各種のイベントがあります。この集会の参加者の皆様にも、ぜひ、食堂などでのイベントを企画していただきたいと思っています(既に実現した企画もあります)。なにかアイデアがある方は、ご相談ください。

他の活動としては、『京大吉田寮通信』というフリーペーパーを作り、近所の飲食店に置いてもらったり、全国の学寮に送ったりしています。ぜひ、みなさんにも配っていただきたいと思いますので、欲しい方は申し出てください。郵送も対応いたします。

また、7月上旬には、吉田寮祭実行委員会主催で、「吉田寮祭」が久しぶりに開催されます。これも、普段は吉田寮に関わりの無い人に、吉田寮への興味を持ってもらう入り口になるはずです。吉田寮祭については、のちほど実行委員会が説明します。